



平成23年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年4月11日

上場取引所 東

上場会社名 サイバーステップ株式会社
コード番号 3810 URL <http://www.cyberstep.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 類
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 類

TEL 03-5465-1500

四半期報告書提出予定日 平成23年4月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年5月期第3四半期の連結業績(平成22年6月1日～平成23年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年5月期第3四半期	898	△22.0	59	△75.4	49	△79.1	6	△96.5
22年5月期第3四半期	1,151	70.4	241	—	234	—	180	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年5月期第3四半期	320.52	313.11
22年5月期第3四半期	9,135.98	8,904.67

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年5月期第3四半期	926	654	64.2	29,586.00
22年5月期	940	637	62.1	29,452.60

(参考) 自己資本 23年5月期第3四半期 594百万円 22年5月期 583百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年5月期	—	0.00	—	—	—
23年5月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年5月期の連結業績予想(平成22年6月1日～平成23年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	△26.3	△64	—	△69	—	△104	—	△5,256.20

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 _____）、除外 一社（社名 _____）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年5月期3Q 21,755株 22年5月期 21,755株

② 期末自己株式数 23年5月期3Q 1,668株 22年5月期 1,943株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年5月期3Q 19,840株 22年5月期3Q 19,749株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施済みです。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、【添付資料】P.3「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	6
(第3四半期連結累計期間)	6
(第3四半期連結会計期間)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間のわが国経済は、一部に持ち直しの動きが見られるなど景気は緩やかな回復基調にあるものの、雇用状況、個人消費は引き続き厳しく、デフレの影響や円高、原油価格の動向も懸念されるなど、依然として先行きには予断を許さない状況が続きました。

わが国のオンラインゲーム業界は、引き続きユーザー数は伸びているものの、提供タイトルが増加しており、ユーザーの獲得競争が続いております。また、ユーザー同士がコミュニケーションを取りながら楽しむソーシャルゲームやWebブラウザのみで楽しめるブラウザゲームなどが幅広い層へと広がっており、新たな成長市場が続くものと予想しております。

このような状況の中、当社グループは創業時から一貫して単独で国際競争力のあるオンラインゲームの開発を続け、日本国内はもとより海外各国の運営会社との協力関係を深めながら、日本を含め広く15カ国地域のユーザーの皆様にも魅力あるゲームを楽しんでいただいております。

当第3四半期連結会計期間では、北米の連結子会社CyberStep Communications, Inc.においてゲームタイトル『ゲットアンプド2』『コズミックブレイク』の自社運営サービスの提供が本格化しました。また、中国においては『ゲットアンプド2』の正式サービス開始に向けた事前テスト及び有料化を始めております。主にアジアの複数の国・地域において新規タイトルの正式サービス開始の時期が重なったことによりライセンス収入が増大した前第3四半期連結会計期間と比較すると、当第3四半期連結会計期間のロイヤリティ等売上高は減収となりましたが、コストの抑制を継続的に進め、グループ全体の経営の効率化、体質強化を図り、企業価値の更なる向上に努めてまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間においては、ロイヤリティ等売上高は159百万円（前年同期比60.3%減）、自社運営売上高は206百万円（前年同期比9.1%増）、売上高合計で366百万円（前年同期比38.1%減）となりました。利益面につきましては売上高の減少を主因として、営業利益74百万円（前年同期比74.3%減）、経常利益72百万円（前年同期比75.4%減）、税金等調整前四半期純利益72百万円（前年同期比75.4%減）となりました。

海外からのロイヤリティ収入及び入金ライセンス料に係る外国税額について控除しきれない金額が発生し、法人税等を16百万円（前年同期比24.0%減）計上し、最終的には四半期純利益は55百万円（前年同期比79.5%減）となりました。

当社グループはオンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、セグメント情報ごとの記載をしておりません。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ14百万円減少し、926百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少67百万円、売掛金の増加51百万円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度に比べ30百万円減少し、271百万円となりました。これは主に、前受金の増加が11百万円ある一方で、長期借入金の減少11百万円のほか、未払費用等のその他流動負債の減少30百万円が生じたことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ16百万円増加し、654百万円となりました。これは主に、四半期純利益を計上したものの自己株式の処分により利益剰余金が17百万円減少した一方で、自己株式（純資産の控除項目）が29百万円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期連結会計期間末に比べ15百万円増加し、448百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりであります。

a. 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、主として税金等調整前四半期純利益72百万円の計上による資金の増加がある一方で、売上債権の増加28百万円及び法人税等の支払13百万円による資金の減少があり、結果として27百万円の資金の増加（前年同期は33百万円の増加）となりました。

b. 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、主として投資その他の資産の増加10百万円により11百万円の資金の減少（前年同期は重要な資金の増減なし）となりました。

c. 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結会計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、ストックオプションの行使による収入500万円がある一方で、長期借入金の返済による支出300万円及びリース債務の返済による支出200万円によりわずかに資金の減少（前年同期は300万円の減少）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期の通期業績予想につきましては、平成23年7月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はございません。

〔将来予想に関する事項と事業等のリスク〕

本発表において提供される資料並びに情報は、現在における予想、目標、評価、見通し、リスクを伴う想定などに不確実性に基づくものを含んでおります。したがって、様々な要因の変化により、将来予想などが実際の結果と大きく乖離する可能性があります。リスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった日本及び国際的な経済状況が含まれております。

当社グループの業績を大幅に変動させる、あるいは、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。なお、これらのリスクは本資料作成日現在において判断、予想したものであります。

新規ゲームタイトルがヒットしなかった場合のリスク、自社運営サービスが思うように進められなかった場合のリスク、ユーザーの個人情報に関するリスク、システム障害に関するリスク、人材の確保に関するリスク、為替変動によるリスク、海外のライセンス供与先の事業環境の変化によるリスク。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

(簡便な会計処理)

固定資産の減価償却費の算定方法

提出会社は、有形固定資産の償却方法として定率法を採用しているため、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しています。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これによる、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

② 表示方法の変更

(四半期連結損益計算書)

当第3四半期連結累計期間（自平成22年6月1日 至平成23年2月28日）

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

当第3四半期連結会計期間（自平成22年12月1日 至平成23年2月28日）

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは前連結会計年度において、経営計画達成のための諸施策の取り組み及び海外における正式サービス開始に伴うライセンス売上高計上等により、前々連結会計年度に計上した重要な営業損失等から転じて、営業利益、経常利益、当期純利益を計上するとともに、営業キャッシュ・フローのマイナスを解消いたしました。しかし

ながら、次年度の損益が悪化する見通しとなるなど、経営状態が安定したと判断できる状況には至りませんでした。

当第3四半期連結会計期間においては、第2四半期連結累計期間における営業損失、経常損失、四半期純損失、営業キャッシュ・フローのマイナスから転じ、営業利益、経常利益、四半期純利益、プラスの営業キャッシュ・フローを計上するに至りましたが、当社グループを取り巻く事業環境は楽観を許さない状況下にあるため、年間を通じた損益は赤字になる見込みであり経営状態が安定したと判断できる状況には至っておらず、継続企業の前提に関する重要事象等の存在を完全に払拭するには至っておりません。

当該状況を解消し、また改善するために以下の対応策を実施してまいりました。

- ・外部委託業者に対する新規の発注を控え、オンラインゲームの製作に注力することにより会社全体としての開発コストを抑制し、オンラインゲームの内容の充実及び新規タイトルの開発を進めることで収益力向上を図る。
- ・販促費を収益力に見合った水準に適正化し、これまでの日本国内での自社運営で培った社内ノウハウを活かしながら最大効率化を目指す。
- ・中途採用などの採用計画の見直しを常に行い、同時に現社員の業務最適化を図る等により、人件費および外部委託費を抑制する。
- ・海外運営会社と協力体制を強化し海外での新規タイトル有料化スケジュールを早期に明確化し、ライセンス料収入を確実に計上する。
- ・取引金融機関との間で必要な借入極度枠を設定する等、資金調達を行うことを通じ、手許資金の安定化・財務基盤の強化に努める。

上記対応策への取り組みを継続し、支出を抑制しながら効率的な事業活動を行い、かつ、当社グループ開発の新規オンラインゲームの各国・地域での立ち上げを着実に進め、ロイヤリティ等の収入を確保すると同時に、日本国内、北米における自社運営の収益力をさらに高めることにより、損益及び営業キャッシュ・フローの改善を図っております。

以上のように、当第3四半期連結会計期間においては継続企業の前提に関する重要事象等は存在しているものの、既に実施している施策を含む効果的かつ実行可能な対応を行うことにより、継続企業の前提に関して重要な不確実性は認められないものと判断しております。

当社グループの、質の高いエンターテインメントとしてのオンラインゲームを、日本を含めた世界各国にライセンスしてきた技術力と運営実績という強みを活かし、今後も事業拡大を図り業績の向上に注力してまいります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成23年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	598,617	665,998
売掛金	148,145	96,669
商品及び製品	740	—
原材料及び貯蔵品	35	179
その他	18,814	19,570
流動資産合計	766,352	782,417
固定資産		
有形固定資産	42,183	55,987
無形固定資産		
その他	5,024	7,272
無形固定資産合計	5,024	7,272
投資その他の資産		
保証金	87,311	87,188
その他	25,195	7,235
投資その他の資産合計	112,507	94,423
固定資産合計	159,716	157,683
資産合計	926,068	940,101
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,827	2,425
短期借入金	60,000	60,000
1年内返済予定の長期借入金	15,144	15,144
未払法人税等	11,078	8,687
前受金	20,000	8,979
その他	74,273	104,364
流動負債合計	182,323	199,601
固定負債		
長期借入金	89,328	100,686
その他	214	1,988
固定負債合計	89,542	102,674
負債合計	271,866	302,275
純資産の部		
株主資本		
資本金	334,895	334,895
資本剰余金	324,895	324,895
利益剰余金	118,843	136,730
自己株式	△180,425	△210,171
株主資本合計	598,208	586,349
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△3,914	△2,834
評価・換算差額等合計	△3,914	△2,834
新株予約権	59,908	54,311
純資産合計	654,202	637,826
負債純資産合計	926,068	940,101

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成22年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成23年2月28日)
売上高	1,151,741	898,131
売上原価	299,940	253,427
売上総利益	851,801	644,703
販売費及び一般管理費	610,121	585,171
営業利益	241,679	59,531
営業外収益		
受取利息	326	306
還付加算金	69	—
その他	45	57
営業外収益合計	442	363
営業外費用		
支払利息	2,577	3,123
為替差損	4,266	6,796
その他	901	923
営業外費用合計	7,744	10,842
経常利益	234,376	49,052
特別利益		
新株予約権戻入益	2,280	2,229
特別利益合計	2,280	2,229
特別損失		
固定資産売却損	1,484	—
固定資産除却損	587	—
特別損失合計	2,072	—
税金等調整前四半期純利益	234,585	51,281
法人税、住民税及び事業税	54,158	44,922
法人税等合計	54,158	44,922
少数株主損益調整前四半期純利益	—	6,359
四半期純利益	180,426	6,359

(第3四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年2月28日)
売上高	591,148	366,162
売上原価	99,581	79,526
売上総利益	491,567	286,636
販売費及び一般管理費	200,314	211,703
営業利益	291,253	74,932
営業外収益		
受取利息	142	119
為替差益	3,051	—
その他	39	17
営業外収益合計	3,233	136
営業外費用		
支払利息	1,042	1,144
支払保証料	264	231
為替差損	—	1,519
その他	44	99
営業外費用合計	1,350	2,994
経常利益	293,135	72,074
特別損失		
固定資産除却損	499	—
特別損失合計	499	—
税金等調整前四半期純利益	292,635	72,074
法人税、住民税及び事業税	21,857	16,600
法人税等合計	21,857	16,600
少数株主損益調整前四半期純利益	—	55,473
四半期純利益	270,778	55,473

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年6月1日 至 平成22年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年6月1日 至 平成23年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	234,585	51,281
減価償却費	23,264	18,709
長期前払費用償却額	3,808	49
株式報酬費用	19,792	7,826
新株予約権戻入益	△2,280	△2,229
受取利息	△326	△306
支払利息	2,577	3,123
為替差損益 (△は益)	2,324	4,847
固定資産売却損益 (△は益)	1,484	—
固定資産除却損	587	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,799	△52,000
たな卸資産の増減額 (△は増加)	362	△596
仕入債務の増減額 (△は減少)	△666	△544
前受金の増減額 (△は減少)	△213,140	11,020
未払費用の増減額 (△は減少)	△4,898	△12,277
その他の資産の増減額 (△は増加)	10,507	△141
その他の負債の増減額 (△は減少)	8,542	△18,373
小計	84,726	10,388
利息及び配当金の受取額	314	254
利息の支払額	△2,658	△3,113
法人税等の支払額	△49,037	△41,033
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,344	△33,503
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△40,000	△50,000
有形固定資産の取得による支出	△1,246	△2,999
有形固定資産の売却による収入	713	—
子会社株式の取得による支出	—	△2,069
その他	△3,618	△15,376
投資活動によるキャッシュ・フロー	△44,151	△70,445
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	50,000	—
長期借入金の返済による支出	△8,383	△11,358
ストックオプションの行使による収入	800	5,500
リース債務の返済による支出	△619	△2,309
財務活動によるキャッシュ・フロー	41,797	△8,167
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,828	△5,205
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	27,162	△117,322
現金及び現金同等物の期首残高	450,512	565,410
現金及び現金同等物の四半期末残高	477,674	448,088

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結会計期間（自平成21年12月1日 至平成22年2月28日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成21年6月1日 至平成22年2月28日）

当社グループはオンラインゲーム事業を営んでおり、同一セグメントに属するゲームの開発、運営を行っております。当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

〔所在地別セグメント情報〕

前第3四半期連結会計期間（自平成21年12月1日 至平成22年2月28日）及び前第3四半期連結累計期間（自平成21年6月1日 至平成22年2月28日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第3四半期連結累計期間（自平成22年6月1日 至平成23年2月28日）

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高（千円）	644,038	15,900	659,939
II 連結売上高（千円）	—	—	1,151,741
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	55.9	1.4	57.3

1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。
2. 各区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 - (1) アジア・・・韓国、中国、台湾、タイ、ベトナム
 - (2) その他の地域・・・南米、北米、欧州
3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

〔セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成21年6月1日 至平成22年2月28日）

当社グループはオンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。